

研究ノート

パラオの高齢者におけるコミュニケーションと生活満足度

葛城 (池田) 裕美^{*1}・藤倉 純子^{*2}・武藤 志真子^{*3}・金子 嘉徳^{*4}・
 吉本 優子^{*5}・松島 康^{*6}・甲斐 永里^{*7}・大竹 佑佳^{*8}・
 松島 美佳子^{*9}・Jadon SEBALT^{*10}・Sylvia OSARCH^{*11}・
 Baklai TEMENGIL^{*12}

Relationship between Communication and Exchange of Food of the Elderly in
 Palau and Their Life Satisfaction Levels

Hiroimi KATSURAGI (IKEDA)^{*1}, Junko FUJIKURA^{*2}, Shimako MUTO^{*3}, Yoshinori KANEKO^{*4},
 Yuko YOSHIMOTO (SEGAWA)^{*5}, Yasushi MATSUSHIMA^{*6}, Eri KAI^{*7}, Yuka OTAKE^{*8},
 Mikako MATSUSHIMA^{*9}, Jadon SEBALT^{*10}, Sylvia OSARCH^{*11} and Baklai TEMENGIL^{*12}

ABSTRACT

Objective This paper explains how communication and exchange of food influence the quality of life (QOL) of elderly people living in Palau.

Method Questionnaire surveys were conducted on 48 and 65 elderlies who came to the Palau Old Age Center in 1999 and 2017 respectively. The extent of communication was classified into three groups of high, middle and low groups, and a test of independence was performed in terms of food exchange. In addition, we visited 21 elderlies who had participated in the first survey and still lived 18 years later and asked their level of life satisfaction.

Results While there was a significant relationship between article exchange and telephone calls in 1999 (**p < 0.01), no relationship was observed between communication frequency and food intake frequency in 2017. The high communication group self-rated their QOL and health as high satisfaction levels.

Conclusion Society in Palau consists in strong bonds between family members, communication with neighbors and culturally religious beliefs, influencing the QOL of the elderly.

-
- ※1 日本大学短期大学部 (三島校舎) 食物栄養学科 准教授 Ph.D.
 Associate Professor, Department of Food and Nutrition, Junior College (Mishima Campus), Shizuoka, Nihon University, Japan
- ※2 女子栄養大学 健康情報科学研究室 教授 Ph.D.
 Professor, Kagawa Nutrition University, Lab. of Health Inforamartion Science, Saitama, Japan
- ※3 女子栄養大学 名誉教授 Ph.D.
 Emeritus professor, Kagawa Nutrition University, Saitama, Japan
- ※4 女子栄養大学 実践運動方法学研究室 教授 Ph.D.
 Professor, Kagawa Nutrition University, Lab. of Gymnastics Methodology, Saitama, Japan
- ※5 京都府立大学大学院 生命環境科学研究科 准教授 Ph.D.
 Associate Professor, Kyoto Prefectural University, Kyoto, Japan
- ※6 大台町報徳診療所 MD Ph.D.
 Director, Odai Municipal Clinic, Mie, Japan
- ※7 公益財団法人 国際開発救援財団FIDR 栄養専門家
 Nutrition Specialist, Foundation of International Development, Relief (FIDR), Cambodia
- ※8 女子栄養大学 実践運動方法学研究室 助手
 Assistant, Kagawa Nutrition University, Lab. of Gymnastics Methodology, Saitama, Japan
- ※9 鈴鹿市学校運営協議会
 Member, Suzuka-city School Management Council, Mie, Japan
- ※10 パラオ国立病院 看護師
 Nurse, The Belau National Hospital, Koror, The Republic of Palau
- ※11 パラオ国立病院 MD
 MD, Chief Division of Medical Services, The Belau National Hospital, Koror, The Republic of Palau
- ※12 パラオコミュニティ文化大臣
 Minister of community and cultural affairs

1. はじめに

パラオ共和国 (Republic of Palau 以下 パラオと略す) は、南太平洋にあるミクロネシア地域の海の300以上の島々からなり、520kmにわたって広がっており、グアムの南西約1300km、フィリピンの北東に位置している。

著者らは1996年～2001年の6年間にわたり、パラオの高齢者の食と体力を中心とした生活実態調査を共同研究で取り組み¹⁾²⁾³⁾、これまで高齢者の食や健康、介護などの現状を明らかにし、問題点改善の方策を提言してきた。2017年に約20年ぶりにパラオに渡航し、パラオの変化について調査したので大学の研究所年報に資料として報告した⁴⁾。

パラオでは伝統的には、男は海へ出て、漁をし、女は畑でタロイモなどを採っていたが、第1次世界大戦後日本の統治により、日本食がパラオの食文化に入り、1970年頃にはインスタントラーメンのサッポロ一番などが日常生活で食されるようになった。第2次世界大戦後はアメリカの信託統治下に置かれたが、1994年に独立し、ミクロネシア地域の文化と、日本の文化、アメリカ及び近隣のフィリピンの文化がミックスしている。長かったアメリカ統治時代の影響で食事が欧米化し、ハンバーガーなどボリュームのある高エネルギー食べ物やドーナッツ、缶詰 (スパム、コンビーフなど)、ジュースなどの輸入食品の増加によって、食環境が変わり肥満者が増えた(2010年:肥満率81%)。これには経済成長やグローバル化に伴う自動車の普及や飲食店の増加など環境の変化も影響していると思われる。しかしながら、多様な文化の影響を受けて生育してきた後期高齢者にはパラオ独自の生活文化も残されていると推測される。そこで、本論では以下の2点を報告する。第1にパラオの高齢者の現在の生活実態を把握することを目的に家庭訪問を行った結果を一覧表にまとめた。第2に共同研究者それぞれがテーマをもって多くの調査を行ったが、著者が約20年前から興味をもっていた人間同士の言語による交流、通信、意思疎通(コミュニケーションと定義)と非言語的コミュニケーションの中で重要とされる贈答(こ

こでは食生活と関連が深い食物のやりとり)に焦点をあてた。なお、上記のことに興味をもった動機は約20年前の食習慣調査の面接において親族や友人・隣人などから「もらえば食べる」という回答が頻発していたためである。

2. 目的

2017年調査の高齢者において、1) 約20年前調査の対象者に家庭訪問と面接を実施し、生活の現状を観察、2) コミュニケーションと食物のやりとりとの関連について分析する 以上の2点から3) コミュニケーションと食物のやりとりがQOLに影響を及ぼしているかを考察する。

3. 家庭訪問(2017年)

3.1 対象

2017年にPalauを再訪し、パラオ国立病院のDr. Sylvia Osarchの調整により、25名の生存が確認できた。25名のうち、2名は島外におり、2名は数度の訪問でも不在であったため、21名に家庭訪問ができた(図1)。年齢不詳の1名を除く20名の平均年齢は80.4歳であった。

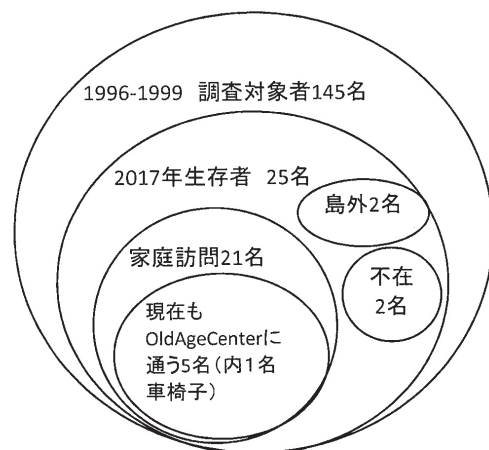


図1 家庭訪問対象者

3.2 方法

家庭訪問はパラオ国立病院の男性看護師の同行のもと行われた。

本人と日本語で会話が可能であった者は3名であった。残り18名は男性看護師がパラオ語で通訳した。

21名のうち、1名は寝たきりで話すことは出来

なく、娘が対応してくれた。20名はADL（日常生活動作）が自立していた。

また、21名のうち、家族構成は独居が2名（うち1名は犬と同居）であったが、他は家族と同居していた。

21名のうち、現在もPalau Old Age Centerに通っているのは、5名であった（図1）。

内1名は、車椅子であったが、家の者の送迎でPalau Old Age Centerへ通われていた。

3.3 結果

家庭訪問の内容を表1に示す。

3.4 考察

1999年時点におけるPalau Old Age Centerでの利用者のうち18年後の2017年の生存者は圧倒的に女性が多かった。男性は1名のみであった。パラオは母系社会であり、同居も娘が多く、介護も主に娘が担っていた。家庭訪問ができた長寿群は「友人が多い」、「朝食をきちんと食べている」、「家族共食」、「朝食の準備は自分でする」、「自分で調理をする」が有意に多い（* $p<0.05$ ）。これは元気であるから可能であるとも、このような事を実行できる者が長生きできるとも両面から言えるかもしれない。

さらに、家屋は18年前より改築されており、住いの中に台所がある家が多く、トイレットも全て水洗であり衛生環境は改善が顕著であった。

しかし家屋の豪華さはまちまちで、広くて寝室5部屋の家もあれば、1部屋の家もあり格差が広がっているという印象がある。息子や娘が米国本土で暮らしている裕福な例もあり、高齢者自身がハワイやフィジーを始め、島外部に出かける事例も多く、国際化は日本の高齢者より進んでいるようである。このような個人差を見ると、格差社会が今後さらに広がる可能性が否定できない。しかしパラオではまだ介護保険制度は整っていない。また、国家公務員を除いては、老齢年金の制度も整っていない。

介護保険や年金制度の整備が待たれるところである。

4. コミュニケーションと食物のやりとり

4.1 質問紙調査（2017年）

4.1.1 対象

2017年8月にPalau Old Age Centerにてパラオ在住、女性56名、男性9名の計65名を対象とした。

4.1.2 調査方法

①コミュニケーションの相手との関係（兄弟・姉妹、息子・娘、その他の親戚、友人、その他の5分類でそれぞれYES、NOの2項選択）、②コミュニケーションの手段（携帯電話、スマートフォン、固定電話、テレビ電話、その他の6分類でそれぞれYES、NOの2項選択）、③コミュニケーション頻度（各コミュニケーションの頻度について、ほとんどない、週2～4回、ほとんど毎日の3分類で1項選択）、④やり取りした食物種類（各コミュニケーションの相手について、買った食物、釣った魚介、自家栽培の野菜・穀物、その他の4分類で多項選択可）を取り上げた。

そのほか目的の3)を検討するために食習慣、生活の社会経済的背景、健康習慣（7つの健康習慣）、最近4週間のWHOQOL-BREF(5段階リッカート尺度)に関する質問紙調査の内容をとりあげた。WHOQOL-BREFは、4分野からなりドメインⅠ（身体的）、ドメインⅡ（心理的）、ドメインⅢ（社会的）ドメインⅣ（環境）に加えてQOLの全体評価および健康認識である。

4.1.3 解析方法

コミュニケーションの多寡を上記①から③を考慮して、高群、中群、低群の3群に分類した（表2）。

コミュニケーション群別と食物のやり取りにつき、独立性の検定および残差検定をおこない、カイ2乗検定により両側検定で有意水準5%未満とした。

4.2 1999年調査と2017年調査の関連

4.2.1 対象

1999年と2017年の両方の調査に参加し、食物のやり取りとコミュニケーションについて回答し、生存していた20名につき、比較検討した。全員が女性であった。1999年の平均年齢は63.5歳、2017年の平均年齢は81.9歳であった。

4.2.2 調査方法

両年のコミュニケーションに関する質問は、ほ

ば同様である。ただし、コミュニケーション手段については、1999年は固定電話のみをとりあげたが、年次変化に伴う技術革新を反映して2017年には携帯電話、スマートフォン、スカイプなどテレビ電話を追加した。

4.2.3 解析方法

2017年の質問においてコミュニケーション高群のうち①コミュニケーション相手②コミュニケーション手段の全ての項目で「YES」であり、③コミュニケーション頻度で「ほとんど毎日」の項目があった者を「積極的コミュニケーション群」とした。これは対象者が20名と少数のため統計解析を可能にすることを考慮したため設けた分類である。2017年に「積極的コミュニケーション群」か否か別に同一対象者の1) 18年前のコミュニケーション高中低3群別、2) コミュニケーション相手との関係別、3) やり取りした食物の種類につき、独立性の検定および残差検定をおこない、カイ2乗検定により両側検定で有意水準5%未満とした。および各人にとって最も大切なもの、各人の生活のQOLにつき集計した。

5. 結果

5.1 対象者の生活の現状 (2017年)

解析対象者の基礎情報を表3に示す。

対象者の82.0%が食事習慣に満足し、毎日家族と食事をし、昼寝、朝食、間食、アルコール飲料、喫煙に関する良い習慣があった。しかしながら、対象者の37.7%が檳榔樹を噛んでいたが、コミュニケーション高群は「檳榔樹を全く噛んだことがない」と回答している人が有意に多かった (* $p<0.05$)。

コミュニケーション高群は、「子どもがいる」と回答した人が有意に多かった (* $p<0.05$)。子ども達と月1~2回会い、子ども (30.4%) と配偶者 (23.2%) からの相談・アドバイスを得ている。最も大切なものは家族・子どもたちに次いで、宗教であった。

5.2 コミュニケーションと食物のやり取り (2017年)

対象者の80%は、兄弟、子ども、親戚、友人と食物、釣った魚、畑でとれた農作物を交換するや

り取りがあった。1999年は食物のやり取りと電話のやり取りの間に有意な関連性があったが (** $p<0.01$)、今回2017年では、コミュニケーション高中低3群別と食物のやり取りの種類の間には有意な関連がみられなかった。また食品群別の摂取頻度との間にも有意な関係はみられなかった。しかし牛乳の摂取頻度について他の食品群よりもやや強い関連が女性でうかがえた。

5.2 コミュニケーション多寡3群別とQOLの関係

5点満点の平均WHOQOL-BREFスコアは3.6、ドメインⅠ (身体的) 3.4、ドメインⅡ (心理的) 3.5、ドメインⅢ (社会的) 3.7、ドメインⅣ (環境) 3.6であり、ドメイン別では身体的が最も低かった。一方、全体QOLおよび健康認識 (3.7) のスコアが最も高かった。

コミュニケーション多寡3群別には、コミュニケーション高群でQOLの全体評価が有意に「大変よい」が多く (* $p<0.05$)、健康認識も有意に「大変満足」が多かった (* $p<0.05$)。

またコミュニケーション低群で日々の安全性が有意に低く (* $p<0.05$)、日常生活に必要な情報の利用も有意に低かった (* $p<0.05$)。

コミュニケーション中群はADL、活力に不満で自身への満足感も有意に低かった (* $p<0.05$)。コミュニケーション3群と仕事の有無では、退職している人はコミュニケーション低群で有意に多く (* $p<0.05$)、コミュニケーション高群は「自営業」の仕事をしている人で有意に多かった (* $p<0.05$)。

5.3 生存者の1999年と2017年の食物のやり取りの比較

1999年では20名全員が、食物のやり取りを兄弟姉妹、息子、娘、嫁、婿、その他の親族、近所の友人、その他の友人、仕事仲間、趣味の友人のいずれかと行っていた。

2017年でも、食物のやり取りを兄弟姉妹、息子、娘、その他の親族、友人のいずれかと行っていた。

特に「積極的コミュニケーション高群」の7名は、1999年でも娘や息子 (** $p<0.01$)、友人 (** $p<0.01$)、親族 (* $p<0.05$) とやり取りがあり、

購入した食物 (** $p<0.01$) や畑で採れた野菜や穀物 (* $p<0.05$) のやり取りが有意に多かった。

また、「積極的コミュニケーション高群」は、大切にしているものに、宗教・信仰が有意に多く (* $p<0.01$)、楽しみにしていることは、食べること (* $p<0.05$)、寝ること (* $p<0.05$)、昼寝 (* $p<0.05$) の生理的、身体的なことが多く、他の家事、仕事、老人クラブ、テレビ・ラジオ、読書・勉強、動物と接していること、晩酌、スポーツ・旅行より有意に多かった。

固定電話の所有の有無は、1999年も2017年も全員所有しており、使用していた。

6. 考察

パラオでは、いも類、果物、魚等の自給食品をやり取りすることが1999年での調査で習慣となっていることが把握され、この習慣は食生活の重要な柱となっていた。2017年はコミュニケーションの多寡と食物のやりとりには有意な関係がなく、いずれの群も食生活には満足している。これは都市化やグローバル化より2017年には子ども世代、孫世代でも農作業をおこなう者や漁師が減少している一方で、容易に多様な食物を購入できることが影響しているのではないかと考えられる。またコミュニケーション高群は健康度が高いため自立して食物を入手できる一方、コミュニケーション中群、低群には食物を分けることが必要と考えることが増加するのではないかと考えられる。

パラオの家族間の強い絆、隣人とのコミュニケーション、文化的に宗教的な信念を持つ社会という側面は約20年たっても、根強く残っている。高齢者におけるコミュニケーションの多寡は、生活満足度や健康認識とのかかわりが深い。

共同研究者は、これまで、日本を含み、数か国を訪問し、高齢者の調査・観察を行ってきたが、女性の方が会話に富み、社交的で友人が多く、長生きしている。パラオでもOld Age Centerへの参加者は女性が圧倒的に多く、男性は後方隅のほうに固まって坐り、言葉が少ない。

パラオでは、コミュニケーション低群で情報活用が低い点など時代の変化もうかがえた。しかし、家族と宗教が一番大事という18年間変わらぬ、

しかし日本人とはやや異なる価値観にあわせた高齢者対策は必近の課題であるように思われる。

7. 謝辞

私どもは約20年前にパラオにて、多くの調査をしましたが、「その後どのようなになっているだろう」という疑問が共同研究者の間で湧き、再度、調査を試みようということになりました。大統領、大臣、パラオ国立病院の方々、行政や地域の有力者のおかげで調査ができました。心より感謝申し上げます。

また、研究を進めるにあたり、健康情報科学研究室 小瀬 貴代氏、鏑木 華子氏に感謝致します。

8. 引用文献

- 1) 金子嘉徳、吉本優子、藤倉純子、武藤志真子他：パラオ共和国老人センターに通所する老人の生活体力と体操内容の検討、女子栄養大学栄養科学研究所年報、Vol.6、221-234 (1998)
- 2) 武藤志真子、吉本優子、藤倉純子、金子嘉徳、佐久間充：パラオ諸島の老人の健康問題、保健の科学、第39巻、4、248-253 (1997)
- 3) Yuko Yoshimoto, Shimako Muto, Junko Fujikura, Mituru Sakuma, Caleb T.O.Otto and Lillian Nakamura : Obesity, bone status and dietary intake of Palauan elderly congregating in a Senior Citizen's Center, Health Palau and Micronesia Vol 12, No1 22-32 (2005)
- 4) 葛城（池田）裕美、藤倉純子、武藤志真子、金子嘉徳、吉本優子、松島康、甲斐絵里、大竹 佑佳、松島美佳子：パラオ共和国の20年間の変化から見た食と健康の今後の課題、女子栄養大学栄養科学研究所年報、Vol22、67-74(2017)

表1 家庭訪問(2017年)

年齢 (2017現在)	性別	同居者	子ども	住居広さ	築年数	台所	トイレ	水道	宗教
87	F	次女(53歳)が世話している。義理の妹さん64歳(先生サイパン(年金暮らし))	子ども6(男2女4(1人死亡))	4DK	約30年前	Electric	Flush バス トイレ	Faucet	Protestant
77	F	娘、娘の旦那、孫、息子2人	子ども5(2男3女(1人死亡))娘1人はUSA	3bedroom	25年前	gas	Flush	Faucet	Catholic
83	F	次男、次男のお嫁さん	子ども5(3男1女1死)	4room	1990	gas	Flush	Tank/Faucet	Catholic
82	F	独り暮らし	子ども6(男5女1)	3room	40年前	gas stove	Flush/シャ ワールーム	Faucet	Catholic
83	F	長女と住んでいる→調理担当は、孫(男)又は次女	子ども14 10人亡くなった(6男(2人死亡)8女→全員生きている)	1room	不明	inside	Flush	Tank/Faucet	Catholic
79	M	配偶者(妻が毎日の食事作り)、息子	子ども2(男1女1)娘(USA 毎日TELLしている)	4room	1972	in-house	Flush	Faucet	Protestant
85	F	独り暮らし	子ども2(女2)長女亡くなった60歳-孫(男2→USAへ 女3) 次女バベルダオブ島にいる-孫は男子のみ	2room	2000	in-house	Flush	Faucet	Protestant
69	F	配偶者	子ども4(女4 3人Hawaii 1人USA)	4room	Old house	in-house	Flush	Faucet	Modekngai(Local)like Catholic
80	F		子ども8(男4女4)	5room	1990	inside kitchen	Flush,3wash rooms	Faucet	Catholic
89	F	配偶者(夫)77歳、娘、孫(孫娘)26歳	子ども3(男1女2 1人グアム)	3bedroom	1987	in-house	Flush	Faucet	Catholic
72	F		子ども6(男2女4 2M2F offisland)	3bedroom	1998	Separate	Local and Flush	Faucet	Seven Day Adventist
89	F		子ども6(男2女4)	3bedroom	1996	in-house	Flush	Tank/Faucet	Seven Day Adventist
65	F	娘		2bedroom	2014	in-house	Flush	Tank/Faucet	Catholic
85	F	息子夫婦	子ども10(男7女3→2-offisland)	2bedroom	2014	in-house	Flush	Tank/Faucet	Protestant
89	F	娘、息子、孫、ひ孫(3歳)		4bedroom	2003	in-house	Flush	Faucet	Catholic
73	F		子ども(男4→1-offisland女1)	3room	2004	in-house	Flush	Tank/Faucet	Apostolic
77	F		子ども10(男7→1passed away 女3)	3bedroom	1985	in-house	Flush	Faucet	Modekngai(Local religion)
-	F			4bedroom	1969	in-house	Flush	Tank/Faucet	Protestant
79	F	娘1人、孫1人		3bedroom	1999	inside	Flush	Tank/Faucet	Modekngai
79	F			2bedroom	2011	inside	inside	Faucet	Seventhday Adentist Church
86	F	娘1人(孫2人)、息子2人。夫は急病にて死別	・子どもは4名(死別:長男 死因は酒、三男:急病) ・孫5名がいる(女3名と男2名)。 ・娘の一人はアメリカ在住で女医、大きな土地に大きな家に居住している。 ・息子1人も飛行機関係の仕事でアメリカ在住である。	many	かなり古いが 充分使える 屋根が一部 壊れている	in-house	Flush/3つ	Faucet	Catholic

家庭訪問で気がついたこと
アパートを所有している。背中が曲がっている(骨粗しょう症)。ナースをしていた(頭痛とめまいがあった)。42歳でリタイア。旦那さんは亡くなっている(サイパンで、小学校の校長先生)。好きな食べ物は、タロ、ライス、フィッシュ、チキン(刻み食)うどん シュリンプとヌードル。眼鏡で見える。父母は中国人。生まれは、ペリリュー島。ナース訪問看護を受けている。友人はみな亡くなっている。家族が全て世話している。
タロ、ライス、フローズンスピナッチ。Old Age Centerで働いていた。檳榔樹を嗜んでいる。埼玉県の土屋先生の思い出を語ってくれた。認知症、高血圧あり。娘さんが日本語が上手(広島で3年勉強)。孫(3歳10ヶ月)がネットで遊んでいた。
料理「煮付け」「まいずる」は日本人から教わる。檳榔樹は、昔、嗜んでいた。誰かが持ってきた食べ物を嫌でも食べなければならぬので、食べている。
犬と住んでいる。檳榔樹を嗜んでいる。日本語は忘れた。Old Age Centerで調理していた。ひざが痛く、リウマチ/高血圧と診断され、ビタミン・アスピリンの薬を服用中。近所に友達が多くおり、助けてくれる。娘さんが電話を頻繁にくれる。
長女が食事を作ってくれる。食生活は、水いも、野菜は時々、肉・魚も時々、果物は毎日食べている。間食に果物食べる。USAの公務員だった。お婆さんは日本人と結婚した。たばこを吸っていたが、1958年にやめた。足が痛いので車椅子で移動している。
奥様と一緒に、MOCのBelon community Collegeの先生だった。毎日昼寝をする。1969年に禁煙した。ストレッチ(体操)している。父親は1974年亡くなり、母親は2000年亡くなった。
両親は長寿で父84歳母94歳であった。15人兄弟(男3女12→4人のみ生きている)いて、両親が生きているときは、大晦日や正月など、よく会っていた。子どもの頃、父親(沖縄の人に、土地を貸して役所をやっていた)が朝、魚を取りに行き、叔父や叔母に魚をあげた。自分が歩けなくなったら、私の世話を誰がしてくれるのか一番心配である。 家は新築中の為、いとこの家に住んでいる。母親は7既に亡くなっている(70歳)。父は不明。
日本語は少し話せるが、パラオ語でインタビューする。自宅には、大きい亀の甲羅あり。2階建てで、1階はキリスト教の祭壇ある。一番目に大切なもの、二番目に大切なものの質問では、「全部大切である」と回答する。旦那さんが先に亡くなっている。自宅周りには兄弟の家がある。杖を使い、たまに歩く。 たまに料理する。朝起きてシャワー、お化粧、口紅、眉を描き、おしゃれに心がけている。
娘さんの家に住んでいる。孫娘が世話している。病院で働いていた。小1〜5小学校で日本語を習った。喫煙している。檳榔樹は昔、やめた。車椅子有り。歩行器有り。子どもたちが子どもたちが周りに住んでおり、調理している。両親は父40歳、母60歳で死亡している。
筆者達のことを覚えていた。元気そうである。質問の受け答えがはっきりしている。日本語は話せないで、パラオ語でインタビューする。現在も檳榔樹を嗜んでいる。子どもは息子 2人、娘は2人いるが離島で生活している。台所と住居が分離していた。とても自立度が高い。車の運転を自分で行う。 両親は、父55歳母72歳で死亡。両親の介護を行った。夫は67歳。
食生活のことを質問すると、「パラオの食べ物おいしい」と回答する。耳と目が聞こえにくい。足の手術した。リウマチである。
本人は寝たきりで話すことができない。娘が世話している。戸建一軒家で、周囲は同じ白い家であった。
元気である。歩行可。息子夫婦と住んでいる。夫は亡くなった。土間あり。部屋とLiving space別々。ご本人所有の土地で、友人とよくしゃべっている。農作業している。土間を歩いたり、Old Age Centerなどへ外出したりしている。ご両親は父、母とも60歳で死亡している。
日本語が上手である。本人所有の土地である。日本人の友達がいる。アメリカにも渡航したことがある。娘は商店(缶詰など食料品)をやっている。大きな木のベランダあり。天井に少し穴があり、雨漏りがしそう。父は1975年に死去。
肥満である。インタビューに、TVを見ながらも、質問はよく聞いており、きちんと答えてくれる。固い表情で笑わなかったが、途中笑った。Asanumaさんの近くのAreaコロール島に住んでいる。英語を少し話せるが、日本語は話せない。パラオ語でインタビューする。2FLアパートの2FLに住んでいる。中流ぐらいと推測される。この家はDr.yano Dr.yano's aunty reatives 家賃なし 一時的に今、住んでいる。家はリフォーム中。以前より、やせた。リウマチ。両親の死亡が父は不明、母は2009年5月15日である。
娘さん(50歳)息子さん(50歳)がkyokoさんをAiraiの家に連れて来ていた。この家が好き。日本語と英語は話せないなので、パラオ語でインタビューする。現在Airaiの家はリフォームしている。現在コロールの娘さんと一時的に一緒に暮らしている。お父さんの祖先は日本人のいとこと暮らしている。子ども9人(男2人は離島、4人はコロール島、3人娘いるが1人は死亡)。現在も農作業している。
離島
日本語は上手に話せる。 - 生活状況:月曜日〜金曜日10時半〜昼食後までOld Age Centerにて過ごし、入口左が定位置である。エクササイズに週2回参加する。 - 罹患歴:病気なし、薬の服用もなし - 食生活状況は、<朝食>食パン2枚にジャムを塗る(バターは嫌い)、卵1個、ミルク(主治医から勧められ、カルシウムとビタミン強化のNONFAT Milk <昼食>Old Age Centerの給食、<夕食>欠食(医師から体重を減少するように注意されたため)である。 - 生き方の信念:健康のコツは、主治医の助言は守ること。嫌なことや苦しいことは早く忘れ、楽しく過ごすこと

表2

コミュニケーション多寡の3群(2017年)

		1	2	3
No	項目	高群	中群	低群
Q1	やり取り関係別	血縁、他人両方多い	他人多い	血縁多い
Q2	コミュニケーション手段	通信手段を全て使う	携帯電話又はスマートフォン	固定電話のみ
Q3	コミュニケーション手段の使用頻度	ほとんど毎日	週2～3回程度	ほとんど使わない
	人数(名)	39	11	11
	%	63.9	18	18

表3 対象者の基礎情報(1999年、2017年)

コミュニケーション群別		n	平均年齢 (歳)	平均身長 (cm)	平均体重 (kg)	平均BMI (kg/m ²)
高群	1999	17	70.8	151.4	67.4	29.2
	2017	39	74.1	153.8	71.8	30.3
中群	1999	13	69.7	150.1	70.9	31.4
	2017	11	71.1	158.7	72.2	28.7
低群	1999	18	72.7	150.6	61.7	27.2
	2017	11	77.1	145.5	65.2	30.8
総計	1999	48	71.7	152.9	66.2	29.1
	2017	61	74.1	152.7	69.7	29.9